



かんすい

日本水環境学会関西支部ニュースレター

No.9 (2005年9月1日発行)

— 編集・発行 —
日本水環境学会関西支部
— 連絡先 —

神戸市須磨区行平町3-1-27
兵庫県立健康環境科学研究所 駒井幸雄
Tel : 078-735-6925 Fax : 078-735-7817

新支部体制始動

日本水環境学会関西支部第21～22期は、兵庫県立健康環境科学研究所 古武家善成氏を支部長とし、新たなスタートを切りました。副支部長は京都大学 森澤眞輔氏、幹事長は支部長と同じ兵庫県立健康環境科学研究所 駒井幸雄氏での新体制です。新体制での最初のニュースレター発行に際し、支部長より御挨拶をいただきました。

第21・22期執行部発足のご挨拶

支部長 古武家善成 (兵庫県立健康環境科学研究所)

戦後60年の節目である2005年度も半ばを過ぎ、日本水環境学会関西支部の会員の皆様には、それぞれの職場でご活躍のことと思います。関西支部執行部は、中室支部長の第19、20期執行部からバトンタッチされ、私が今年度より2期の支部長に就任することになりました。顧問、理事の先生方から叱咤激励を受け、幹事の皆様のご協力を得ながら、関西支部をより発展させるべく2005、2006年度の運営を進めていく所存です。森澤眞輔副支部長、駒井幸雄幹事長ともどもよろしくお願い申し上げます。

昨年度第20期は関西支部創立20周年の年に当たり、多くの記念行事が実施されました。今年度は次の20年を刻む最初の年になります。心を新たにして、関西支部の新しい歴史の一步を踏み出したいと思います。皆様ご承知のように、関西支部のアクティビティの高さは、学会7支部の中でも大いに注目されています。その力の源泉は、言うまでもなく、日常の支部活動を支える幹事の方々の活躍と、それに応える支部会員の皆様の“進取の気鋭”です。今年度はこの関係をより一層充実させるために、後のご案内にもありますように新たな部会活動も立ち上げ、今まで以上に多くの会員の皆様に参加していただきたいと考えています。この趣旨に沿って、各部会が主催する連続ミニフォーラムを企画していますので、ご期待ください。

以上は支部内での活動の拡充ですが、さらに、支部外の市民、NGOの皆さんとの交流・連携も拡充させたいと考えています。関西支部には、2003年の第3回世界水フォーラムにおける関西支部プレフォーラムなど、これまでも市民、NGOの皆さんとの交流実績がありますが、学会本部の活動方針の中にも重要な柱の一つとして位置づけられているこの活動を、より一層進めていきます。具体的には、支部ホームページの更なる充実によって社会への情報発信機能を強化するとともに、インターネットメールを通じて関西地域の多くのNGOへ直接情報発信し、より緊密な連携を実現させたいと思います。

もちろん、これら以外に、定例となっています総会、講演会、見学会、ニュースレターの発行など、各種行事・活動を充実した内容で実施いたします。本部を通じた委託調査等に対しても積極的に対応していきます。また、今年度は、隔年で行っています支部研究発表会を11月に京都市で実施する予定です。2003年度の前回は多くのNGOの皆さんに参加いただきましたが、今回は専門分野での特別セッションも用意しています。会員の皆様も奮ってご参加ください。

関西支部の新たな20年を迎えて、支部の活動がますます充実・発展するよう舵取りを努めますので、皆様からの変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

研究部会便り

関西支部の部会がリニューアルされました！ 皆さんも御参加ください

関西支部では、従来3つの研究部会（川部会、内分泌攪乱物質部会、環境文化部会）がありましたが見直し、今回新たに川部会、化学物質部会、簡易分析法部会、情報部会、生物部会、および環境技術部会の6部会としてリニューアルすることになりました。それぞれの部会活動を活発に行うことにより、会員並びに市民の皆様に対して、地域における水環境学会としての役割を

果たしていきたいと思っています。会員の皆様には是非部会活動に加わって頂きますようご案内致します。各部会の目的や活動内容と担当幹事の連絡先を御紹介いたします。皆さんもお気軽にご参加下さい。

なお、今年度から部会活動の一環として、各部会担当によるミニフォーラムを順次開催していく予定です。

川部会

【連絡先】 担当支部幹事 服部幸和（大阪府環境情報センター分析課） E-mail : yukikazu@mbox.epcc.pref.osaka.jp
代表世話人 土永恒彌（㈱タツタ環境分析センター） E-mail : tsuneya@osk.3web.ne.jp

川部会は、水環境を単なる数値としてではなく実際に川を観察し総合的に把握してその機能を評価するために、川のウォッチングと評価手法の検討を柱に村岡先生の部会長のもとで2001年6月に活動を始めて4年になります。この間に貝塚市の近木川を最初に7月の湖北の高時川まで19の河川（含む韓国の川）をウォッチしました。

この活動で、川は各地域の人々との間に多様な関わり方の歴史と持っていることを知りました。川は水質だけでなく人との関わりを含む水環境として評価することの重要性を再認識しました。ウォッチングの結果は月刊「環境技術」誌に2004年4月号から「関西の川歩き」として連載されています。また、五感にもとづく川の評価のアンケート調査や本部の水環境健全性指標検討調査委員会からの環境省受託「平成16年度水環境健全性指標検討調査」業務への協力依頼を受けて関西での実態調査を行いました。

発足以来部会長を務めていただきました村岡先生の後を引き継ぎ、土永が代表世話人としてお世話させていただきます。皆様の御参加と御意見お待ちしております。ホームページをリニューアルオープンしましたので併せてご覧ください。

化学物質部会

【連絡先】 担当支部幹事 上野 仁（摂南大学薬学部） E-mail : ueno@pharm.setsunan.ac.jp

化学物質部会は、昨年度まで環境ホルモン部会として活動を行ってきた部会です。今年度からは、化学物質全般に拡大して勉強会等の活動を行うことになり、部会の名称を変更しました。本部会では、これまで環境ホルモンに関する勉強会や講演会を実施するとともに、「アプローチ環境ホルモン—その基礎と水環境における最前線—」を出版し成果が得られました。

今年度の活動として、まずミニフォーラムを開催する予定であり、そこで水域環境汚染や浄水処理過程で問題となっているVOCを取り上げることにしました。また、VOCは住環境においてシックハウス症候群など新たな健康影響を惹起することで注目されています。そのため、本来異なる水環境と住環境における、VOCから見た健康影響と汚染実態及び低減化等に関する話題を中心とし、NPO法人日本健康住宅協会(KJK)との共催による講演会を11月18日(金)に大阪駅前第2ビル 6階大阪市立大学文化交流センターホールにて開催する予定です。一方、定期的な勉強会として、淀川水系等で汚染が進行している有機フッ素化合物の汚染実態と消長、環境内動態、健康影響、処理技術等に関する情報を収集し、整理していく所存です。

簡易分析法部会

【連絡先】 担当支部幹事 貫上佳則（大阪市立大学大学院工学研究科） E-mail : kanjo@urban.eng.osaka-cu.ac.jp

関西支部では、数年前から社会に開かれた学会や市民とのパートナーシップ構築を目指した支部活動も展開し、市民公開シンポジウムや学術講演会を数多く実施してきました。このような経験を通じて、水質簡易分析技術とその簡易測定キットが市民やNGOの環境調査や環境教育に欠かせないツールとなっているものの、現状では使用目的の違いによりいくつかの誤差要因を有することを確認してきました。

そこで、この簡易分析法の誤差要因を系統的に検討し、使用目的、測定対象試料の違い、測定者の熟練度などの新しい観点からこれら水質簡易分析法のより適切な使用方法を提言するために、2004年5月に関西支部内に「簡易分析法改良」研究委員会（委員長：中室克彦 摂南大学薬学部教授）を立ち上げ、わが国で最も繁用されているバックテストを検討対象として活動をスタートさせました。昨年度の検討結果の一部は、2004年8月21日の関西支部市民体験講座（於：大阪工業大学）や2005年3月の日本水環境学会年會、関東支部NGO研究発表会において発表しています。

今年度からは「簡易分析法検討部会」として名称を改めて活動を続けており、目下、昨年度の報告書のとりまとめ作業を行っています。活動内容に興味をお持ちの方は、ぜひ御連絡ください。

生物部会

【連絡先】 担当支部幹事 森下雅子（社団法人淡水生物研究所） E-mail : l.fwb@gaea.ocn.ne.jp

生物部会は、本年度から活動を開始しました部会です。

水環境と生物とは密接に結びついており、化学物質だけで水環境を把握することはできません。また、生物そのものも多種多様であり、その分野も幅広く、多くの先生方が調査研究されています。生物部会も幅広い生物の分野を限定しないで進めていく必要があると考えていますが、まずは、身近な水環境の生物に焦点を絞って活動していくこととしています。現場に行き、その水辺の状況を実際に目で見、肌で感じる事が、水環境を知る第1歩であり、特に、その場の生物を知ることが大切と考えます。

そこで、本年度は、ミニフォーラムとして川部会と合同で河川観察会を企画しました。10月29日(出)に、丹波山地から大阪湾へと注いでいます武庫川の河川環境の状況を観察し、河川の健康診断を試みます。

現在、生物部会員が少ないですが、生物に興味をお持ちの水環境学会員の方々のご意見とご加入をお願いします。

● 日本水環境学会関西支部主催見学会の御案内

今年度の見学会は、古都・京都での開催を予定しています。見学先は、京都市唯一の埋立処分地であり、伏見区、山科区の東部山地で平成12年度に供用開始した「エコランド音羽の杜」と、京都の酒どころ伏見での船旅「十石舟の旅」の予定です。日頃の慌しさから少し離れ、ゆっくりと舟の上からの水環境を実感してみませんか。

【期日】平成17年10月7日(金) 12:00～17:00 【集合・受付】地下鉄東西線小野駅（予定）【参加費用】3500円程度 【定員】40人

【見学施設】1) エコランド音羽の杜(京都市東部埋立処分地) 2) 伏見十石舟の旅・月桂冠大倉記念館

【日程・申込み】詳細日程及び申込み受け付けは、9月1日までに日本水環境学会関西支部のホームページ (<http://www.jswe-kansai.com/>)にて公開します。

情報部会

【連絡先】 担当支部幹事 藤井俊樹 (財ひょうご環境創造協会) * E-mail: fuji@heaa-salon.or.jp
濱崎竜英 (大阪産業大学人間環境学部) ** E-mail: hamasaki@due.osaka-sandai.ac.jp
* 情報ネットワーク講演会担当, ** ホームページ担当

情報部会の活動は、環境分野と情報技術の連携促進を目指しており、大きく分けて2つの柱をもっています。

1. 情報ネットワーク講演会：情報技術が急速に進展する中で、環境保全や修復といった環境分野にも情報技術が導入され、今後、その連携はさらに緊密になっていくことが予測されます。このような状況の中で、日本水環境学会関西支部は、早くから情報技術との連携の必要性を重視しており、情報ネットワーク講演会を通して、環境保全・修復技術の発展に寄与していきます。
2. 関西支部ホームページ (HP)：日本水環境学会関西支部では、会員サービスだけでなく、水環境に興味があり、地域で環境に関する様々な取り組みをしている市民や団体に対しても情報を提供しています。その手段の一つが関西支部独自のHPからの情報発信です。情報部会は、支部活動や部会活動などの情報をはじめ、HP独自のコンテンツも充実させ、HPへのアクセス増加と会員獲得を目的とした活動を行っていきます。HPアドレスは<http://jswe-kansai.com/>です。学会本部のHP (<http://www.jswe.or.jp/>) から 支部活動 → 関西支部 でアクセスできます。

環境技術部会

【連絡先】 担当支部幹事 中田章雄 (株日水コン環境事業部) E-mail: nakamura_h@nissuicon.co.jp 日水コン
澤井正和 (川崎重工工業株環境ビジネスセンター) E-mail: sawai_m@khi.co.jp

水環境学会は、他の学会等比べて広範な分野の会員が一堂に会している特性があります。水環境に係る課題の多くが複雑な背景を有し、単一分野の知見・技術では対処困難な実態を考えると、本学会が有する間口の広さは大きなアピールポイントであると思われます。その中で、プラントメーカーやコンサル等の民間企業に所属する会員から構成される「環境技術部会」は、種々の環境技術の現場に近いというメリットを有しています。そのメリットを活かした実際の環境技術に関する取り組みは、他部会からの基礎技術等に関する情報と共に水環境学会のさらなる向上に貢献できるものと考えています。

このような視点に基づき、環境技術部会では最近の水処理技術 (浄水処理、下水処理、その他の排水処理、河川浄化 等) や廃棄物のリサイクル技術を中心とした情報発信をミニフォーラムによって行うことを考えています。ここで目的とするところは、技術の必要性、背景から現状における対処選択肢まで一貫した情報を提供することであり、民間企業の宣伝ではありません。このため、大学等の研究者による基調発表を受ける形で、プラントメーカーやコンサル等の技術者が関連する技術の実態を紹介していく方法を考えております。

本部会は発足したばかりで種々の準備や調整が必要なため、具体化には時間を要するものと思いますが、上記の方向性で準備を進めたいと思います。

かんさい“水”めぐり

鴨川 飛び石考

元京都府京都土木事務所河川課 吉見重則

十年はひと昔。鴨川に亀の形の飛び石 (通称亀さん) を設計して10年経ちました。製造者責任 (?) が消え、まさに、「亀さんが一人歩きできるようになった」と、最近、感じています。

しかし、これまで、亀さんの設置には色々なご意見をいただきました。『何故 かめ?』に対して、これまで答えたものを並べてみると、

①気軽に川で遊んでもらうため

子供たちに雨と川の増水の関係を知って欲しい。「今日の雨は、かめさんの頭まで浸かってたよ」みたいに。

②思い出の場所にするため

そのためには、子どもに愛され水に住み、上に立ったり座ったり出来るもの。亀以外になんか考えられますか?

次によくある御意見は、人工的だ、自然の石を使うべきだ、京らしさがない、デザインに品がないなどです。川の姿と相対するのが砂利の大きさ。今回の飛び石を設置した位置での自然な石の大きさは、とても人の乗れるものにはなりません。そこで、計画コンセプトとして次のようなケースからの選択を考えました。

①疑似自然とする

しかし、中途半端は失敗の元。

②目立たないものにする

しかし、これもダメ。子どもも楽しむランドマークとすることも目的です。

結局、

③人工物として主張する

となりました。後はデザインの問題です。基本は切石。あとは、亀、千鳥、高瀬舟などから見る人の記憶に残り楽しいものを考えてみました。

「京らしさ」と言う言葉にはずいぶん悩まされましたが、私の結論は、新しいものに抵抗しつつ、時間をかけて暮らしに取り入れてしまうこと。近頃、若者や子どもたちに愛着を持ってもらっている様子です。

飛び石の間隔が広く子供や女性には危険だとの声もあります。けれど、お子さんが自分でわたれるようになったら、「一人前の子どもになったな!」と誉めてあげてください。奥さんが怖がったら、何年ぶりかで、手をつないであげてください。久しぶりに (失礼) 笑顔にあえるはずですよ。

今度、是非、最愛の人と鴨川へどうぞ。コンクリートの亀が生き生き見えるかも・・・

(2005.7.1 寄稿)



写真1 初夏の鴨川荒神橋上流



写真2 京の物流を支えた高瀬舟は、何艘も連なって「一之舟入」まで・・・

● (社)日本水環境学会関西支部 第5回研究発表会・総会の御案内

(社)日本水環境学会関西支部第5回研究発表会・総会を、以下の要領にて開催いたしますので、奮って御参加ください。

【主催】 (社)日本水環境学会関西支部、京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター

【日時】 2005年11月15日(火)9:30～17:50

【場所】 キャンパスプラザ京都 (JR京都駅北側徒歩1分)

【参加費】 一般3,000円 学生1,500円

【プログラム(予定)】 9:30～11:40 一般発表(ハイブリッドセッション1) / 12:40～14:50 一般発表(ハイブリッドセッション2) / 15:00～17:15 特別セッション『琵琶湖環境研究・対策の最前線』<京大流域圏総合環境質研究センター 藤井滋穂「琵琶湖水質データベースの構築と活用」・滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 大久保卓也「琵琶湖水質の長期変化と流入負荷量変化との関連性」・京大生態学研究センター 陀安一郎「安定同位体を用いた琵琶湖集水域研究」・総合討論> / 17:20～17:50 総会 / 18:00～20:00 懇親会<会費：5000円程度 場所：アパホテル京都駅前(総会会場正面)：懇親会参加御希望の方は下記申込先にE-mailにて11月11日までにご連絡下さい。>

※プログラムの詳細は11月1日(火)までに日本水環境学会関西支部のホームページ (<http://www.jswe-kansai.com/>) にて公開します。

【研究発表募集】 会員、非会員、既発表、未発表を問いません。水環境に関する全ての分野の発表を歓迎します。下記要領で、申込および発表原稿の送付を行って下さい。研究発表の採否については、実行委員会の判断にご一任下さい。

《申込方法》 発表者の所属、氏名、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)、講演題目、を任意の形式で記載して下記申込先へE-mailでお送り下さい。E-mailの標題は「水環境関西5発表申込」として下さい。申込後2～3日経過しても受取確認のメールが届かない場合は、下記申込先へお問い合わせ下さい。一般発表の発表形式はハイブリッド形式のみです。

《申込締切》 10月14日(金)

《発表原稿作成要領と締切》 日本水環境学会関西支部ホームページに掲載している執筆要領に従ってA4用紙2ページで作成して下さい。原稿締切は10月21日(金)です。

【申込・問合せ】 米田 稔 (〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学院工学研究科都市環境工学専攻
Tel:075-753-5154 E-mail: yoneda@risk.env.kyoto-u.ac.jp)

2005年度 関西支部役員名簿

顧問	井上頼輝 福井工業大学 寺島 泰 大阪産業大学	宇野源太 元大阪工業大学 村岡浩爾 大阪産業大学	奥野年秀 元財ひょうご環境創造協会
名誉理事	金子光美 立命館大学 北村弘行 元(社)瀬戸内海環境保全協会 園 欣弥 園技術士事務所	河合 章 元近畿大学 佐谷戸安好 元摂南大学 土永恒彌 (株)タツタ環境分析センター	川島 普 元大阪工業大学 宗宮 功 龍谷大学 永井勉夫 元大阪府環境情報センター
支部長・理事	古武家善成 兵庫県立健康環境科学研究所 理 事：天野耕二 立命館大学 今井俊介 奈良県保健環境研究センター 貫上佳則 大阪市立大学 竺 文彦 龍谷大学 中尾昌弘 大阪市立環境科学研究所 中野 武 兵庫県立健康環境科学研究所 錦見盛光 和歌山県環境衛生研究センター 福永 勲 大阪人間科学大学 松井三郎 京都大学 山田春美 京都大学 和田安彦 関西大学	副支部長・理事：森澤眞輔 京都大学 飯田 博 (財)関西環境管理技術センター 海老瀬潜一 摂南大学 國松孝男 滋賀県立大学 津 野洋 京都大学 中川雅夫 京都府保健環境研究所 中室克彦 摂南大学 服部幸和 大阪府環境情報センター 藤井滋穂 京都大学 矢野 洋 神戸市水道局水質試験所 山中芳夫 大阪学院大学	石川宗孝 大阪工業大学 川合真一郎 神戸女学院大学 菅原正孝 大阪産業大学 内藤正明 滋賀県琵琶湖・環境科学研究所 中島 淳 立命館大学 中本雅雄 元大阪府環境情報センター 平田健正 和歌山大学 藤田正憲 関西大学 山田 淳 立命館大学 芳倉太郎 大阪市立環境科学研究所
監 事	塩山昌彦 (株)クボタ	中野 武 兵庫県立健康環境科学研究所	
幹 事 長	駒井幸雄 兵庫県立健康環境科学研究所		
幹 事	浅野昌弘 龍谷大学 飯田 博 (財)関西環境管理技術センター 大久保卓也 滋賀県琵琶湖・環境科学研究所 貫上佳則 大阪市立大学 後藤敦子 尼崎市立衛生研究所 高原信幸 神戸市環境保健研究所 服部幸和 大阪府環境情報センター 福島 実 大阪市立環境科学研究所 森下雅子 (社)淡水生物研究所 芳倉太郎 大阪市立環境科学研究所 和田桂子 (財)琵琶湖・淀川水質保全機構	天野耕二 立命館大学 池 道彦 大阪大学 笠原伸介 大阪工業大学 紀本岳志 (株)紀本電子工業 小笹 泰 大阪市水道局水質試験所 田口 寛 京都府保健環境研究所 濱崎竜英 大阪産業大学 藤井俊樹 (財)ひょうご環境創造協会 山林右二 東大阪市公害監視センター 吉崎耕大 (株)クボタ	井伊博行 和歌山大学 上野 仁 摂南大学 門口敬子 (財)関西環境管理技術センター 小泉義彦 大阪府公衆衛生研究所 澤井正和 川崎重工業(株) 中田章雄 (株)日水コン 肥田嘉文 滋賀県立大学 森 一英 (株)クリアス 山村 優 寝屋川南部広域下水道組合 米田 稔 京都大学